

KAWAKAMI

# 川上村

うるおいの源

# 一雫からの はじまり

渓谷に降り注ぐ一滴の水は、  
大自然の営みの中で、やがて一筋の川の流れとなり、  
あらゆる生命をうるおしながら、  
海へと流れていく。

川上村が保全する「吉野川源流―水源地の森」は、  
恵みの雨を蓄え、川を創造し、  
命あるものを育む、まさに命の「源」。  
先人が残してきた自然と恩恵を、  
しっかりと受け継ぎ、  
未来へと手渡していきたい。

## いのちが共存する 「水源地の森」

吉野川・紀の川源流の地である川上村は、吉野林業発祥の地でもあり、約500年間にわたって植林が進められてきました。村の面積のほとんどを日本三大人工美林の一つに数えられている吉野杉の美林が占めており、中でも、かつて吉野川の源流部である三之公地区の一角には、手付かずの天然林が残されていました。村ではこの貴重な天然林を後世に残すため、平成14年度に三之公地区約740haを購入。それが「吉野川源流―水源地の森」です。

村では、生態系調査を進める一方で、この「水源地の森」を村内外の人に森の美しさや大切さを伝える森林学習の場として活用しています。雨を蓄え、川を創造し、あらゆる命を支える天然林を守っています。

# 特集 川上の魅力を語る

内山りゅう  
Ryu Uchiyama

栗山忠昭  
Tadaki Kuriyama

とある縁から始まった川上村との交流。川上村の魅力を外からの視点で発信するネイチャーフォトグラファー内山りゅうさんと内からの視点で発信する村長の熱い想いとは。

「私たちの想いが、ふつと全国に届いたといううれしさが私たちにはあるんですよ」

栗山忠昭

川上村村長。県立吉野林業高校卒業。平成24年7月25日村長就任。「水源地の村づくり」をテーマに取り組んでいる。



栗山 内山さんには、BSフジ「いさな大自然」で川上村を紹介していただいたり、森と水の源流館の開館10周年記念フォーラムでも講演いただきまして、感謝しております。いい出合いをさせていただきます。ありがとうございます。  
内山 こちらこそ、ありがとうございます。私は、各地で講演を頼まれることがあります。メールや電話での依頼が大半です。でも川上村の担当者の方は、実際に自宅まで足を運んでいただき、すごく熱いものを感じています。郷土愛というか自分たちの

村がすごく大事なんだという想いが伝わってきて、私でも微力ながらお力添えできたらいいと思います。受けさせていただけました。  
栗山 そうだったんですね。村では森と水の源流館を核とした水源地の村づくりを進めていく中で、なかなか我々だけでは川上村のよさを上手く発信していくことができていませんでした。川上村はその名前の通り、吉野川の最上流にあり、その豊かな水は源流部の山々にたくさん雨が降って、ゆつくりと時間を掛けて流れ出すことによつて保たれています。川上村は吉野川の源流としての役割を果たしているという想い、その想いを平成8年に「川上宣言」として発信しました。その宣言文の二つを具現化していくことが村づくりだと考え取り組んでいます。しかし、過疎化が進む村で、若者もいない、林業も厳しい。一生懸命自然を守り、村のよさを伝えたいという想いはあってもなかなかかわかってもらえなかったんです。このような状況の中、内山さんが川上村を理解してくれて、テレビを通じて全国に発信してくれました。私たちの想いが、ふつと全国に届いたとい



「熱いものを感じたんです。郷土愛というか自分たちの村がすごく大事なんだという意識がすごく高くて」

内山りゅう

ネイチャー・フォトグラファー。昭和37年、東京生まれ。東海大学海洋学部水産学科卒業。水に関わる生き物とその環境の撮影、とくに淡水にこだわり、図鑑や写真集などを精力的に発表する。

ううれしさが私たちにはあるんですよ。

内山 放送後、5000人手つかずの森がまだあったのか、信じられない、ビックリしたと、私の周りの人たちは、みんな言うんですよ。

川上の魅力を語る

内山りゅう × 栗山忠昭

**栗山** もともと川上村というのは吉野林業の中核なんです。約500年間にわたって植林が進められてきました。広大な面積のほとんどが山林で、どちらを向いても、日本三大美林の一つに数えられる吉野杉が見渡せます。その中でも、吉野川源流部にある三之公川流域の二帯は、手つかずの天然林です。川上村ではこの貴重な天然林を後世に残すため、三之公地区約740haを購入し、「水源地の森」として保存するこ

とにしました。あらゆる命を支える貴重なこの森をこれからも守っていくことは、私たちの重要な使命ですね。

**内山** 手つかずの天然林がこま

「今の三之公地区の自然は本当にすばらしいです。手を入れることなく、このままの状態を次の世代に伝えていってほしいですね」

で残っていることは本当にめずらしいです。そうそうないですよ。それに、全国的にみてもかなり早い段階に森を購入しようという考え方が川上村にあったというこ

と自体が、先を見越された行動です。すごいことだと思います。

**栗山** そう言っていただけるとうれしいですね。でも、確かにその通りで、川上村所有の740haは全国でも最大規模であり、その中には貴重なトガサワラ原始林も含まれています。また、内山さんに言っていたように20世紀に森を購入したという自治体は数が知れており、かなり早い段階で取りかかっています。

川上村では、平成6年に第3次総合計画「吉野川源流物語」を策定し「樹と水と人の共生」をテーマにした村づくりを掲げました。その2年後に「川上宣言」を発信し、平成11年から平成14年にかけてこの山を購入しました。二つステップを歩み続けています。今後も森と水の源流館

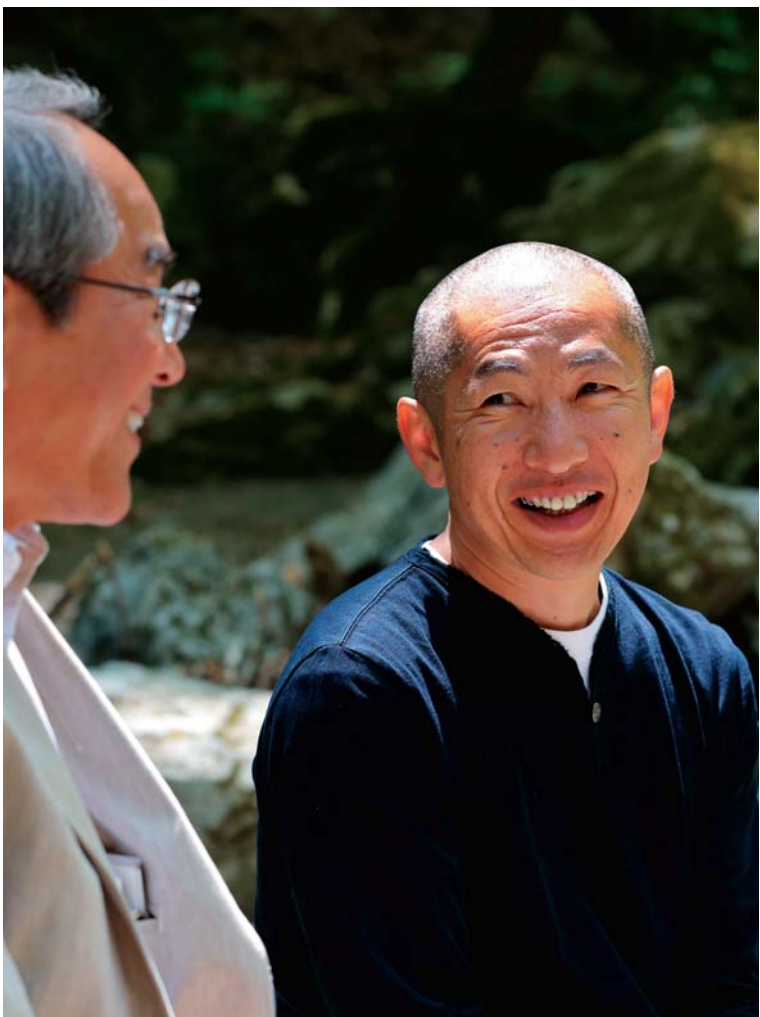
を中心に、水源地の森を守るとともに、魅力を伝え、観光事業などにもっとつながっていかなく



ればと思っています。

**内山** 今あるこのすばらしい資源をもっと多くの人に知ってほしいですね。そもそもですが、清らかで安心して飲める水がどれだけ価値があるかということにもっと気づいてほしいです。日本は雨が多いいからとても水が豊かなんです。水道水も飲めますし。こんな国は世界中にありません。でも日本に住んでいると豊かすぎるから、その価値というものに気づきづらいんです。

例えばサウジアラビアなどから



見たら、飲める水が流れているなんてことは、信じられないことです。今は石油を持つている中東が経済的に豊かだと言われていますが、100年後にはブラジルが1位になると言われています。アマゾンがあり、水を持っているからです。水は資源なんです。水が資源ということをおかっている日本人は残念ながら少ないです。けれども、今の三之公地区の自然は本当にすばらしいです。手を入れることなく、このままの状態を次の世代に伝えていってほしいですね。

**栗山** 蛇口をひねれば水は出てきますし、水があつてあたり前という感覚ですよ。でもその水がどこから来た水なのかということをおかると、やはり川であり、森なんです。



**内山** いつか吉野川から紀の川、この2つの川を主人公にして、雨が降って森から出てきた水が川を流れ、いずれ和歌山市に流れつくという一連をまとめた写真集なんかができたらいいなと思っています。

**栗山** 内山さんが作ってくれたら、すごくいいものになるでしょうね。

私は、一人でも多くの人にこういう村がある、紀の川の源流は吉



「あらゆる命を支える貴重な天然林をこれからも守っていかねければならないことが、私たちの使命ですね」

なければと思っています。

**内山** そうですね。最近の子供たちは、お米の作り方もお米を作る水がどこからくるのかも分からない、という時代になってきましたからね。私は子どもたちにもっときちんと伝えていかねければと思います。最近では子ども向けの本を多く出しています。今

月発売となる『水のコレクション』もその一つです。川上村の写真も使用していますので、またご覧になってください。

**栗山** そうですか。ぜひ拝見させていただきます。本日はありがとうございました。内山さんの今後ますますのご活躍をお祈りいたしております。



## 川上の魅力を語る

内山りゅう × 栗山忠昭